

### 1 自己評価及び第三者評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2870800899		
法人名	力開発株式会社		
事業所名	グループホーム舞子		
所在地	神戸市垂水区舞子坂3丁目14番21号		
自己評価作成日	平成24年 5月30日	評価結果市町村受理日	平成24年9月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaiyokouhyou.jp/kaiyosip/infomationPublic.do?JCD=2870800899&amp;SCD=320&amp;PCD=28">http://www.kaiyokouhyou.jp/kaiyosip/infomationPublic.do?JCD=2870800899&amp;SCD=320&amp;PCD=28</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフ・デザイン研究所		
所在地	兵庫県神戸市長田区菟乃町2-2-14		
訪問調査日	平成24年6月17日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・その人らしさに重きを置き、その人のニーズに添った支援をしている。
・医療機関との連携を密にし、入居者の状態の変化に速やかにかつ適切に対応している。
・介護技術の向上のため、職員が各種研修に参加や、資格取得を行ない、自己研鑽している。

#### 【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

①生活を楽しむ・・「食」の楽しみを大切に、入居者が望むメニュー食や季節食、盛付け、食器にも気を配っている。また、生活をより充実したものにするため「好きなこと、得意なこと」が継続できるよう個人別に支援している。②家族との情報共有・・入居者の日々の暮らしぶりや健康状態等は、来訪時や電話等で報告している。また、行事やホームでの近況報告等を掲載した季刊紙「スマイルニュース」を発行している。また、来訪の難しい家族へは月1回写真入りのお便りを送付する等心配りしている。③医療面の安心感・・ホームに看護師が配置され心身状態の変化にも迅速に対応できる体制(医療連携)が整っており、本人も家族も安心できる状況になっている。
--

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中でその人らしく安心して暮らせるように「安心生活・健康サポート・生きがいのある毎日」を理念とし、それを各フロアに掲示すると共に、フロアミーティングの場でも遂行されているか確認し合っている。	職員は、「入居者個々人の生活が理念に即して営まれているか」を、相互確認している。職員の理解度・観察力が向上してきている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の舞子中学校文化祭には毎年招待頂き、作品を出展している。舞子小学校には民生委員を通じ、昔の遊びの会に参加、近くの牛乳店にはほぼ毎日牛乳を購入するため通い、交流している。	民生委員の計らい等により近隣の小中学校と交流している(「昔遊びの会」、「文化祭」等)。近所の牛乳店へは日常的に出向き購入している。また、ふれあい喫茶(月1回)にも出向いている。	今後益々と、地域の方が気軽に立ち寄って頂けるような企画の実施を提案されるとともに、地域の社会資源としての取り組みの継続に期待をします。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	舞子中学校の文化祭に出展した作品を見に行くことにより、中学生やお母さん方にも見ていただき、ふれあっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には地域の民生委員の方に参加していただき、地域内での交流がもてる機会の情報をいただき、ふれあい喫茶など参加している。	運営推進会議において地域の方々と交流する機会(福祉センターやボランティアの紹介)を得たり、認知症の知見者の参加により閉鎖的なホームケアにならないよう努めている。	時には、会議の議題に沿った方(消防・警察・医療・福祉等)も、オブザーバーで出席して頂く事で、専門的な知識を頂ける機会となります。今後も運営推進会議の活用を期待をします。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市のあんしんすこやかセンター担当者には運営推進会議の議事録を送付し毎回報告している。市の福祉担当者には介護保険について管理者が問い合わせし指導いただいている。	市の福祉担当者には、介護保険制度に対し種々の質問・相談を行っている(今年度の改正についても)。地域包括支援センターの職員との協力により、ホーム内研修(身体拘束排除等)を実施した。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年社内研修として、高齢者虐待及び身体拘束について職員全員が学んでいる。	職員相互確認の基、地域包括支援センターの職員よりインプットした情報等を活かし、「身体拘束しないケア」実践に取り組んでいる。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修の中で不適切なケアを学び、より深く認識するよう意見交換などを行い、努めている。	職員のメンタルヘルス不全が「不適切なケア」を、そして「不適切なケア」が高齢者虐待に繋がることを理解し職員相互にサポートしあい、未然防止に取り組んでいる。	具体的な身近な事例等を取り寄せ、さらに理解を深めて頂く事に期待をします。

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	昨年末まで入居していた利用者が成年後見制度を活用しており、協力し取り組んでいた。	活用事例が職員の権利擁護制度の認知に繋がっている。	地域包括支援センターの職員に協力を仰ぎ、権利擁護制度について学ぶ機会を設けられては如何でしょうか。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前の見学や面談の機会に、利用者や家族から意見・希望など聞き、支援する方向性を説明している。	契約前の見学・面談等によりホームの概要をつかんでもらい、契約時には管理者・フロア長他が介護サービスにおける重要事項、重度化した場合の方針等丁寧に説明し、理解を得ている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族代表が参加していただき、意見を伺っている。 また面会に来られた機会には、意見・要望を伺い、それを運営に生かしている。	家族会・運営推進会議の場面や行事参加、来訪時に意見・要望を聞き取っている。内容に応じて、申し送り・フロア会議等で周知し、タイムリーに運営に反映している。	職員の対応が良いことが、友人や知人の訪問が多いことに繋がっています。今後も馴染みの関係が継続できるような雰囲気づくりに期待をします。
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各フロアミーティングで出された意見や提案を、フロア長会議において管理者に報告している。	職員の意見等は、主にフロア会議の場で聞き取っている。職員のメンタルヘルスを良好にする上でも、日々の激務のガス抜きは重要であり、職員からの要望により懇親会を実施した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	フロアミーティングで出た意見を、フロア長会議において管理者に報告している。その内容を把握し、それを基に職場環境の整備に努めている。 (休憩室の整備等)		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修は全員参加できるようシフトにおいて配慮し、参加できなかった場合の予備日も設定している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	垂水区グループホーム連絡会が3ヶ月に一度開催されており、各ユニットのフロア長が参加し他のグループホームと意見交換したものを持ち帰り、サービスの向上に努めている。		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申し込み前には見学の機会に、入居決定するまでには本人との面談を行っている。 また入居当初には、思いなどを聞き出す環境づくりをしている。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学・面談の際に家族からの要望を聞き取り書面にし、フロア職員が共有し、入居後に生かしている。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人家族が、まず何を要望しているか、入居前に綿密に伺い、対応している。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	各利用者にとり、いごちのよい場所と思える人間関係及び、環境づくりをしている。		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とは連絡を密にし、共に本人を支援していく関係を築いている。		
20	(11) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	年始には自宅に帰り、隣近所の人と触れ合えるよう、また施設の買物に昔からの馴染みの店を利用するなど、支援している。	昔からの馴染みのスーパーでの買い物や自宅に戻ったり(年始)している。旧くからの知人・友人や在宅時の担当ケアマネジャーが訪ねてくることもある。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う人同士席次を近くにしたり、時には重荷になっていないかを観察把握している。 利用者同士をつなぐ話題を提供したり、支援している。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も、家族からの要望あれば相談にのりよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントを定期的に行い、本人の意向に添った介護計画を作成している。	入居者の思いや意向は、日常生活の中で直接聴き取ったり「気づきノート」に記入することを通じて把握している。午前のティータイムやレクリエーション(トランプ・カラオケ等)は入居者発信である。	
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、本人・家族から十分な聞き取りを行なうと共に、介護支援専門員からの情報や居宅時の介護計画をよく把握するようにしている。		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日2回のバイタルチェックを基本に健康状態を把握しつつ、趣味や好み・性格など、その人に合わせた過ごし方を支援している。		
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング・アセスメントで現状を見直し、担当職員を中心に介護計画作成会議において、家族・本人・担当医・看護師の意見を織り込み、作成している。	介護計画の作成に当たり、本人・家族の意向と看護師よりの意見を組入れ担当者会議を開催し作成している。モニタリング・カンファレンスは、関係者全員が担っている。	家族向けアセスメントシート等を利用して、より本人と家族の希望に沿った介護計画を期待しています。また、家族の支援や日常生活リハビリも介護計画に位置づけるられたら如何でしょうか。
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のカルテに1日の様子をその場で対応した職員が記録し、特に健康状態及び特変事項は気づきノートに記載し、介護計画に反映している。		
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ニーズをフロアで対応するが、管理者に相談したり、運営推進会議・垂水グループホーム連絡会で相談し、意見を求め、支援方法の検討に生かしている。		

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員に運営推進会議に出席いただき、地域の情報を得ている。地区の小学校で開催される音楽会やふれあい喫茶などの情報をいただき、参加している。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の月2回の往診により、個々の管理をして頂いている。突発的な状態変化には受診し指導して頂いている。また必要時には他の医療機関を紹介して頂き健康管理に努めている。	内科の定期往診(月2回)の他、歯科・皮膚科等についても個別対応で訪問してもらっている。また、受診に際しては、状況に応じて家族と協働している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師には逐一伝達相談し対応している。またその指示により受診し、体調変化に早期対応している。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との面談において、入院時は介護サマリーを提出し日常生活の様子を伝達している。退院時にはよく聞き取り、今後の生活を相談している。	入院時は、病院関係者と連携し早期退院にむけ取り組んでいる。退院時には、帰ホーム後の生活がスムーズになされるよう種々の情報を入手している。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の方針を入居時に説明し同意を頂くと共に、必要に応じてターミナル時の方針を家族や主治医と話し合い、またその情報を皆で共有し、その時の連絡手段なども皆が周知している。	入居者の最期を意味あるものにする、という思いから、看取り委員が家族とともに看取り委員会を開催し、本人に望ましい介護計画に基づき職員全員で支援するよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルもあるが、のど詰めや誤嚥等の対応を研修を行い、徹底している。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害マニュアルを基本に、ADLの状態に合わせて対応するよう、消防署と連絡とり、訓練を実施している。	災害時にも対応できるADL状況表を作成している。災害訓練は火災想定で実施している。	災害時の避難場所等地域の方々との協力体制を築くことも検討されては如何でしょうか。

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(18)		○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、尊厳を守るような声かけや対応をしている。 自己表現にくい方には非言語コミュニケーションによる対応をしている。	認知症高齢者とのコミュニケーション法として、バリデーションを導入している。これにより言葉での自己表現が難しい方の思いや意向も汲み取れるようになってきている。	
37			○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	様々な場面で自己決定ができるよう尊重し、支援している。		
38			○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	健康状態に配慮しながらも、その人らしい過ごし方ができるように本人の思いを確認しながら支援している。		
39			○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節や好みに合わせたその人らしいおしゃれができるように支援している。		
40	(19)		○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	好みを聞き取りメニュー作りをしている。また買物にも同行し、今日食べたいものを購入したり、レクを楽しむ感覚で節分の巻き寿司など巻いて頂いたりしている。	月の内15食程は入居者の希望によるメニューを楽しんでいる。買い物、調理、配膳・下膳も入居者個々の状態に応じて協働している。	
41			○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分チェック・食事量チェックを行いその人の必要量を体調を考慮しつつ支援している。		
42			○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアチェック表を作成し、朝・夕に実施。一人ひとりに合わせた方法で支援している。		

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレチェック表を活用し、一人ひとりに合わせたパターンを把握した上で、トイレで排泄できるよう支援している。	入居者個々の排泄パターンと排泄のサインを把握し、さりげないトイレ誘導をしている。また、薬に頼らず飲食を工夫(バナナ酢他)した排泄の支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝食にヨーグルトやバナナを取り入れ、便秘にならない様できるだけ食べ物で改善できるようにしている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調や希望に合わせて、いつでも入浴したい時に入れるよう、また好まない人には、入浴しない日が続かないよう声かけし支援している。また身体状況に応じ、個別入浴・介助入浴をしている。	入浴は、週3回を基本としているが、本人の状態・希望により回数含めて個別入浴・介助入浴を実施している。以前行っていた季節湯(柚子湯等)は、入居者の意向で現在は実施していない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室を清潔に保ち、室温に配慮し良眠出来るよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬の情報書を確認し、内容を共有している。また与薬時は見守りを確実にこなしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりができる事、楽しめることを支援し、生花の好きな方には散歩のときに花を摘み、生けて飾る。掃除の時には椅子を移動するのを楽しみにしている方には役目として担って頂いている。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとの外出レクの企画や日々の散歩・近くの小売店への買物など出かけた希望を把握し、支援している。近所の小売店とは、買物の際店の人の会話も楽しめている。	散歩や買い物、ベランダの花の手入れ等外気に触れる機会を日常のものとして取組んでいる。季節毎の外出(花見や敬老の日の外食等)も楽しみの一つとなっている。	



自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の援助により少額のお金を持つ方には、好みの菓子など購入の際、自分で支払えるよう支援している。事務所預かりの方には職員がお金を渡し、本人が支払えるよう支援している。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望する方にはフロアの電話で家族の声が聞けるよう支援している。認知の軽度な方は、携帯電話を持ち自由に家族や知り合いの声を聞いている。又、ご家族が海外在住の方には、月2回スカイプを利用し遠方でも顔を見てお話し頂いている		
52	(23) ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温の管理に注意を払うと共に、定期的に窓を開け、戸外の空気を取り入れ、季節を感じられるよう配慮している。また季節の花を飾ったりしている。	リビングの大きな窓は、見晴らしが良く(明石海峡大橋が見える)、自然の太陽光で時間や季節を感じることができる。生け花を飾ることにより季節感を取り入れている。	
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人用の椅子や複数人用のソファを設置し、心安く歓談できるよう工夫している。		
54	(24) ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた馴染みのある物を自室に置き、落ち着ける場所とし、また安全に過ごせるよう環境整備にも注意を払っている。	自宅で使用していた馴染みのある物(仏壇・筆筒等)を置き、自身の部屋として落ち着ける空間となっている。また、本人の状態に応じ安全確保のため家具移動や手摺りの設置等し支援している。	今後も、利用者の状態の変化に合わせ、家族と相談しながら居心地の良い居室作りを継続願います。
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア内は安全に配慮し、バリアフリーにしている。安心して移動できるよう手すりを設置している。トイレなどにはポスターを貼り、どこにあるかわかるように工夫している。		